

## **医薬品に共通する特性と基本的な知識**

午前 (H28)

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、その有用性が認められたものであるため、使用には、保健衛生上のリスクは伴わない。
- b 人体に対して使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。
- c 一般用医薬品は、その販売について、専門家が関与する必要はない。
- d 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問2

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、そのすべてが解明されている。
- b 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があってはならない旨が定められている。
- c 一般の生活者は、一般用医薬品に添付されている添付文書を見れば、効果効能や副作用について誤解や認識不足が生じることはない。
- d 医薬品は、市販後も、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直し等がなされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問3

医薬品のリスク等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 薬物の毒性の指標として、50%有効量 ( $ED_{50}$ ) が用いられる。
- b 少量の医薬品の投与でも、長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合がある。
- c 新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準である Good Manufacturing Practice (GMP) に準拠して、薬理試験の他に様々な毒性試験が厳格に実施されている。
- d ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に Good Clinical Practice (GCP) が制定されている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 4

健康食品に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 特定保健用食品については、通常、食品では表示できない特定の保健機能の表示が許可されている。
- 2 栄養機能食品については、各種ビタミン、ミネラルに対して栄養機能の表示を行うことができる。
- 3 健康補助食品（いわゆるサプリメント）は、錠剤等の医薬品と類似した形状のものも多く、誤った使用方法により健康被害を生じた例が報告されている。
- 4 機能性表示食品については、疾病に罹患<sup>り</sup>している者の健康維持及び増進に役立つ旨又は適する旨を表示することができる。

問5

医薬品の副作用に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に ( a ) で発現する医薬品の ( b ) かつ ( c ) 反応」とされている。

	a	b	c
1	通常用いられる量	有害	重篤な
2	最大用いられる量	過敏	意図しない
3	最大用いられる量	有害	意図しない
4	最大用いられる量	過敏	重篤な
5	通常用いられる量	有害	意図しない

問6

医薬品の副作用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 副作用とは、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なもののみをいう。
- 2 医薬品の主作用以外の反応であっても、特段の不都合を生じないものであれば、通常、副作用として扱われることはないが、好ましくないもの(有害事象)については、一般に副作用という。
- 3 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、その疾病に対して薬効をもたらす一方、別の疾病に対しては症状を悪化させたり、治療が妨げられたりすることもある。
- 4 医薬品の副作用は、薬理作用による副作用と、アレルギー(過敏反応)に大別することができる。

問7

医薬品の副作用に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、( a )な疾病に伴う症状の改善等を図るためのものであり、( b )の判断で使用するものである。通常は、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、その兆候が現れたときには基本的に( c )することとされており、必要に応じて医師、薬剤師等に相談がなされるべきである。

	a	b	c
1	重度	医師	使用を中止
2	重度	一般の生活者が自ら	使用を中止
3	軽度	一般の生活者が自ら	使用を中止
4	軽度	医師	用量を減らして継続
5	重度	一般の生活者が自ら	用量を減らして継続

問 8

医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「薬はよく効けば良い」「多く飲めば早く効く」等と短絡的に考えて、定められた用量を超える量を服用すると、有害事象につながる危険性が高い。
- b 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
- c 医薬品の販売等に従事する専門家は、医薬品の適正な使用が図られるよう、購入者の理解力や医薬品を使用する状況等に即して説明するべきである。
- d 一般用医薬品により薬物依存が形成されても、そこから離脱することは容易である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問9

医薬品と食品の相互作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 食品には、医薬品の成分と同じ物質が含まれているものがあり、それら同じ物質を含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取となる場合がある。
- b 外用薬や注射薬であれば、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受けることはない。
- c 酒類（アルコール）をよく摂取する者は、肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、アセトアミノフェンを服用した場合、十分な薬効が得られなくなることがある。
- d 生薬成分が配合された医薬品であれば、食品と合わせて摂取することにより、その効き目や副作用が増強されることはない。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 10

適切な医薬品選択等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 乳幼児、妊婦、通常の成人で比較した場合、一般用医薬品で対処可能な症状の範囲は変わらない。
- b 購入者が、あらかじめ購入する一般用医薬品の品名を指定してきた場合であっても、使用する人や症状の相談を受けた上で、使用する人に適した一般用医薬品を勧めるべきである。
- c 高熱や激しい腹痛等、重い症状を呈している場合でも、まずは一般用医薬品を使用することが適切な対応である。
- d 情報提供は、医療機関の受診を勧めたり（受診勧奨）、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 1 1

高齢者の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、年齢からどの程度リスクが増大しているかを判断することが容易であるため、年齢のみに着目して情報提供や相談対応することが重要である。
- b 高齢者が、複数の医薬品を長期間に渡って使用する場合には、副作用を生じるリスクは高い。
- c 一般用医薬品の用量は、ある程度の個人差を織り込んで設定されているため、高齢者においても、基本的には、定められた用量の範囲内で使用されることが望ましい。
- d 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 2

医薬品の使用上の注意における年齢区分に関する記述について、( )  
の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の使用上の注意において、乳児、幼児、小児という場合には、おおよそその目安として、乳児とは ( a )、幼児とは ( b )、小児とは ( c )  
をいう。

	a	b	c
1	1 歳未満	9 歳未満	1 3 歳未満
2	1 歳未満	7 歳未満	1 3 歳未満
3	1 歳未満	7 歳未満	1 5 歳未満
4	3 歳未満	9 歳未満	1 3 歳未満
5	3 歳未満	9 歳未満	1 5 歳未満

問 13

医薬品が胎児に及ぼす影響に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊婦が医薬品を使用した場合に、血液-胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことも多い。
- b ビタミンA含有製剤は、妊娠初期に通常の用量を超えて摂取しても、胎児に先天異常を起こす危険性は低いとされている。
- c 医薬品には、配合成分やその用量によらず、流産や早産を誘発するおそれがあるものはない。
- d 一般用医薬品では、使用上の注意において、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 1 4

プラセボ効果に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応には、不都合なもの（副作用）は含まれない。
- c プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化等が関与して生じると考えられている。
- d 一般用医薬品の使用によってもたらされる望ましい反応や変化がプラセボ効果と思われるときは、それを期待して使用を継続するべきである。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 15

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 健康の維持・増進
- b 健康状態の自己検査
- c 生活の質 (QOL) の改善・向上
- d 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防 (科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。)

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 16

セルフメディケーション及び一般用医薬品の選択に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 世界保健機関によれば、セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」とされている。
- 2 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待される。
- 3 体調の不調や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処し、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられないときでも、継続して使用することが重要である。
- 4 一般用医薬品の販売等に従事する専門家による情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるものではない。

問 17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟とは、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟をいう。
- b サリドマイド製剤は、1961年、西ドイツ（当時）のレント博士から副作用について警告が発せられ、日本では、同年速やかに販売停止及び回収措置がとられた。
- c サリドマイドによる薬害事件は、我が国のみならず世界的にも問題となったため、世界保健機関加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。
- d サリドマイドの光学異性体のうち、鎮静作用はR体のみが有するとされているので、R体のサリドマイドを分離して製剤化することで催奇形性を避けることができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 18

スモン訴訟に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、世帯厚生資金貸付による生活資金の貸付、重症患者に対する介護事業が講じられている。
- 3 スモン訴訟は、現在も全面的な和解は成立していない。
- 4 スモン訴訟を契機の一つとして、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

問 19

H I V 訴訟に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

H I V 訴訟とは、( a ) 患者が、ヒト免疫不全ウイルス (H I V) が混入した原料血漿<sup>しょう</sup>から製造された ( b ) 製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。国及び ( c ) を被告として、1989年5月に大阪地裁、同年10月に東京地裁で提訴された。

	a	b	c
1	白血病	血液凝固因子	地方自治体
2	白血病	免疫グロブリン	製薬企業
3	血友病	免疫グロブリン	地方自治体
4	血友病	血液凝固因子	製薬企業
5	血友病	免疫グロブリン	製薬企業

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病 (C J D) に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンパク質の一種であるプリオンが原因とされている。
- b 大腸や小腸の粘膜に慢性の炎症又は潰瘍を引き起こす消化器難病である。
- c C J D 訴訟は、国、輸入販売業者及び製造業者を被告として、大津地裁及び東京地裁で提訴され、2002年3月に両地裁で和解が成立した。
- d C J D 訴訟を契機に、ウシ乾燥硬膜の移植の有無を確認するための患者診療録の長期保存等の措置が講じられるようになった。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

## **主な医薬品とその作用**

午前 (H28)

問 2 1

かぜ及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、体内から取り除くものである。
- b かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主にウイルスが鼻や喉等に感染して起こる上気道の急性炎症の総称である。
- c インフルエンザは、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力は強いが重症化することはない。
- d かぜのときは、症状に関わらず、かぜ薬を選択するのが最適である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 2 2

かぜ薬に配合される成分とその配合目的の組み合わせについて、誤っているものはどれか。

[成分]	[配合目的]
1 ブロムヘキシン塩酸塩・・・・・・・・	痰 <sup>たん</sup> の切れを良くする。
2 ブロメライン・・・・・・・・	くしゃみや鼻汁を抑える。
3 ノスカピン・・・・・・・・	咳 <sup>せき</sup> を抑える。
4 サリチルアミド・・・・・・・・	発熱を鎮め、痛みを和らげる。

問 2 3

かぜ薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アセトアミノフェンは、小児で水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっているときは使用することができない。
- b グリチルリチン酸二カリウムは、大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- c セミアルカリプロテイナーゼは、血液凝固異常のある人では出血傾向を悪化させるおそれがある。
- d トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、腫れを和らげる働きがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 2 4

かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a しょうせいりゅうとう 小青竜湯は、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症を生じることが知られている。
- b はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯については、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。
- c まおうとう 麻黄湯は、体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳せきが出て身体せきのふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされている。
- d けいしとう 桂枝湯は、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 2 5

一般用医薬品における、次の解熱鎮痛成分とその特徴について、正しいものの組み合わせはどれか。

[成分]	[特徴]
a アセトアミノフェン・・・・・・・・	主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
b エテンザミド・・・・・・・・・・	他の解熱鎮痛成分と比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強い。
c イブプロフェン・・・・・・・・・・	専ら小児の解熱に用いるための坐薬 <small>ざやく</small> に配合されることがある。
d アスピリン・・・・・・・・・・	アレルギー症状として、ピリン疹が知られている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 26

プロスタグランジンと解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 腹痛を含む痙攣性<sup>けいれん</sup>の内臓痛については、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- b 化学的に合成された解熱鎮痛成分に共通して、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群や中毒性表皮壊死融解症、喘息<sup>ぜん</sup>を生じることがある。
- c プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節する。
- d 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑える成分が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 27

一般用医薬品における、眠気を促す薬とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、複数の鎮静薬の併用や、長期連用しても構わない。
- b ブロモバレリル尿素は、胎児に障害を引き起こす可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避ける。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人を対象としている。
- d 小児では、抗ヒスタミン成分により神経過敏や中枢興奮等の副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 28

一般用医薬品におけるカフェインに関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして( a ) mg、1日摂取量では( b ) mgが上限とされている。

	a	b
1	50	200
2	100	200
3	100	500
4	200	500
5	200	1,000

問 29

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a プロメタジンテオクル酸塩は、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、小児では使用を避ける必要がある。
- b スコポラミン臭化水素酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。
- d ジフェニドール塩酸塩は、消化管からよく吸収され、脳内に移行しやすいとされるが、肝臓で速やかに代謝されてしまうため、抗ヒスタミン成分等と比べて作用の持続時間は短い。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問30

小児の疳<sup>かん</sup>を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 柴胡加竜骨牡蛎湯<sup>さいこかりゅうこつぼれいとう</sup>を小児の夜泣きに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、さらに1週間服用を続ける。
- b 小児鎮静薬として使用される漢方処方製剤は、作用が穏やかであるため、乳児にも使用することができる。
- c 小児鎮静薬は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- d ジンコウは、鎮静、健胃、強壮等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 3 1

鎮咳去痰薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジヒドロコデインリン酸塩は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行する。
- b ノスカピンは、心臓刺激作用を示し、副作用として動悸が現れることがある。
- c セネガは、糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、1日最大配合量がセネガ原生薬として1.2g以上を含有する製品では、使用上の注意において成分及び分量に関連する注意として記載されている。
- d チペピジンクエン酸塩は、アドレナリン作動成分で、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 3 2

口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔咽喉薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であり、全身的な影響を生じることはない。
- b ドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、噛み砕いてから飲み込むようにする。
- c 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射するようにする。
- d 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

**問 3 3**

胃の薬に配合される成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ゲファルナートは、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的として用いられる。
- b ケイヒは、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- c デヒドロコール酸は、胆汁の分泌を促す作用があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- d ジメチルポリシロキサンは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問34

一般用医薬品の腸の薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒマシ油は、腸内容物の急速な排除を目的として用いられ、急激で強い瀉下作用を示すため、小児には使用しないこととされている。
- b タンニン酸アルブミンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- c ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避けるべきである。
- d マルツエキスは、腸内細菌によって分解して生じるガスによって便通を促すとされており、比較的作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問35

浣腸薬及び坐剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに、ソルビトールが配合された浣腸薬を使用すると、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- b グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。
- c 炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 浣腸薬は、便秘のとき以外にも、直腸内容物の排除を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問36

次の心臓に作用する薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ロクジョウは、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされている。
- b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされている。
- c センソは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされている。
- d ゴオウが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問37

高コレステロール改善薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、末梢組織へのコレステロールの吸収を抑えたり、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す等により、血中コレステロール異常の改善を促すとされる成分を主体として配合される。
- b 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c リノール酸、ポリエノスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- d パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化<sup>せつ</sup>排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問38

高コレステロール改善薬の成分に関する記述について、( ) の中に入るべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の ( a ) 内は、いずれも同じ字句が入る。

( a ) は酵素により、活性化され、補酵素として細胞内の酸化還元系やミトコンドリアにおける電子伝達系に働き、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。( a ) の摂取によって尿が ( b ) 色になることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。

	a	b
1	ビタミンB2	黄
2	ビタミンE	黄
3	ビタミンB2	茶
4	ビタミンE	赤
5	ビタミンB2	赤

問 39

貧血に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 一般的な症状として、疲労、動悸<sup>き</sup>、息切れ、血色不良、頭痛、耳鳴り、めまい、微熱、皮膚や粘膜の蒼白<sup>そう</sup>（青白くなること）、下半身のむくみ等が現れる。
- 2 鉄分の摂取不足を生じても、ただちに貧血の症状は現れないが、持続的に鉄が欠乏すると、ミオグロビンが減少して貧血症状が現れる。
- 3 鉄欠乏状態を生じる要因としては、日常の食事からの鉄分の摂取不足及び鉄の消化管からの吸収障害による鉄の供給量の不足、消化管出血等が挙げられる。
- 4 体の成長が著しい年長乳児や幼児、月経血損失のある女性、鉄要求量の増加する妊婦・母乳を与える女性では、鉄欠乏状態を生じやすい。

問 4 0

貧血用薬の成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 不足した鉄分を補充することを目的として、フマル酸第一鉄、溶性ピロリン酸第二鉄、可溶性含糖酸化鉄、クエン酸鉄アンモニウム等が配合される。
- b 鉄製剤の服用後、便が黒くなることがあれば、消化管内での出血が疑われるので、すぐに使用を中止しなければならない。
- c コバルトは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンCの構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- d マンガンは、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 4 1

内用痔疾用薬とその成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 痔に伴う症状の緩和を目的として、センナ（又はセンノシド）、ダイオウ等の生薬成分が配合されている場合がある。
- 2 カイカクはマメ科のエンジュの成熟した果実を基原とする生薬で、主に止血効果を期待して用いられる。
- 3 カルバゾクロムは、毛細血管を補強、強化して出血を抑える働きがあるとされ、止血効果を期待して配合されている場合がある。
- 4 肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して、ビタミンDが配合されている場合がある。

#### 問 4 2

婦人薬の女性ホルモン成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 エチニルエストラジオールは、エストラジオールを補充するもので、<sup>ちつ</sup>膣粘膜又は外陰部に適用されるものがある。
- 2 妊娠中に摂取することによって胎児の先天異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- 3 吸収された成分が乳汁中に移行することはないため、母乳を与える女性でも使用することができる。
- 4 長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌や脳卒中等の<sup>がん</sup>発生確率が高まる可能性もあるため、定期的な検診を受ける等の対応が必要である。

**問 4 3**

アレルギー用薬に配合される成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 アゼラスチンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- 2 メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。
- 3 ケトチフェンは、抗ヒスタミン作用がないため、乗物又は機械類の運転操作に支障を及ぼすことはない。
- 4 プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。

問 4 4

アレルギー用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般の生活者が自己判断により、アレルギー症状が現れる前から、予防的に一般用医薬品のアレルギー用薬を使用することは適当である。
- b 一般用医薬品には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療に用いることを目的とするものがある。
- c 一般用医薬品のアレルギー用薬は、一時的な症状の緩和に用いられるものであるため、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受ける等の対応が必要である。
- d 皮膚症状が治まると喘息が現れるというように、種々のアレルギー症状が連鎖的に現れる場合は、一般用医薬品によって一時的な対処を図るよりも、医療機関で総合的な診療を受けた方がよい。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 4 5

内服アレルギー用薬として用いられる漢方処方製剤に関する記述について、  
( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

使用する人の ( a ) と症状にあわせて漢方処方が選択されることが重要  
である。( b ) の症状を主とする人に適すとされるものとして、十味敗毒<sup>じゅう み はいどく</sup>  
湯、消風散<sup>しょうふうさん</sup>、当帰飲子<sup>とうきいんし</sup>等が、( c ) の症状を主とする人に適すとされるも  
のとして、葛根湯<sup>かつこんとう</sup>加川芎<sup>かせんきゅうしんい</sup>辛夷、小青竜湯<sup>しょうせいりゅうとう</sup>、辛夷清肺湯<sup>しんいせいはいとう</sup>等がある。

	a	b	c
1	体質	鼻	皮膚
2	年齢	目	鼻
3	体質	皮膚	目
4	年齢	鼻	皮膚
5	体質	皮膚	鼻

問 4 6

鼻に用いる薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヒスタミンの遊離を抑える成分（抗アレルギー成分）は、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎<sup>くう</sup>に対しては無効である。
- b フェニレフリン塩酸塩が配合された点鼻薬を過度に使用すると、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- c 鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合されているベンザルコニウム塩化物は、ウイルスに対しても効果がある。
- d 交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を拡張させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、ナファゾリン塩酸塩が配合されている場合がある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 4 7

点眼薬に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所( a )内は、いずれも同じ字句が入る。

一般用医薬品の点眼薬は、その主たる配合成分から、( a )、一般点眼薬、アレルギー用点眼薬、抗菌性点眼薬に大別される。

( a ) は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。アレルギー用点眼薬は、花粉、ハウスダスト等のアレルギーによる目のアレルギー症状(流涙、目の痒み、結膜充血等)の緩和を目的とし、( b )成分や抗アレルギー成分が配合されているものである。抗菌性点眼薬は、抗菌成分が配合され、結膜炎(はやり目)やものもらい(麦粒腫)、( c )等に用いられるものである。

	a	b	c
1	人工涙液	抗ヒスタミン	眼瞼炎 (まぶたのただれ)
2	コンタクトレンズ 装着液	ステロイド性抗炎症	緑内障
3	人工涙液	ステロイド性抗炎症	眼瞼炎 (まぶたのただれ)
4	コンタクトレンズ 装着液	抗ヒスタミン	眼瞼炎 (まぶたのただれ)
5	人工涙液	抗ヒスタミン	緑内障

問 4 8

点眼薬の使用にあたっての一般的な注意事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 通常、ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤等の配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。
- b 点眼後は、数秒間、眼瞼<sup>けん</sup>（まぶた）を開けて、薬液を結膜囊<sup>のう</sup>内に行き渡らせる。その際、目頭を押さえると、薬液が鼻腔<sup>くう</sup>内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- c 点眼薬は、通常、無菌的に製造されているため、別の人と共用しても何ら支障がない。
- d 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、開封後、冷所保存した状態における期限を示したものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 49

眼科用薬の配合成分とその目的とする作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a    ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを活性化する作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- b    ビタミンDは、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の反応を改善する効果を期待して用いられる。
- c    プラノプロフェンは、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- d    スルファメトキサゾールは、細菌感染による結膜炎やものもらい（麦粒腫）等の、化膿性の症状の改善を目的として用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問50

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、刺激性が高いため、目の周りへの使用は避ける必要がある。
- b オキシドールは、ショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。
- c ポビドンヨードは、誤って原液を口腔粘膜に適用しないように注意する必要がある。
- d ヨードチンキは、化膿<sup>のう</sup>している部位では、かえって症状を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問51

次の外皮用薬として用いられる配合成分とその特徴について、正しいものの組み合わせはどれか。

[配合成分]	[特徴]
a ピロキシリン・・・・・・・・・・ (ニトロセルロース)	創傷面の血管を収縮させ出血を抑える。
b アラントイン・・・・・・・・・・	損傷皮膚の組織の修復を促す。
c ナファゾリン塩酸塩・・・・・・・・	創傷面に薄い被膜を形成して保護する。
d ヘパリン類似物質・・・・・・・・	患部局所の血行を促す。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問52

歯痛薬（外用）、歯槽膿漏薬及び口内炎用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯痛薬は、歯の齶蝕による歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品であり、歯の齶蝕が修復されることはない。
- b 歯槽膿漏薬は、歯肉炎、歯槽膿漏の諸症状の完治を目的とする医薬品である。
- c 歯槽膿漏薬の内服薬は、抗炎症成分、ビタミン成分等が配合されたもので、外用薬と併せて用いると効果的である。
- d 口内炎用薬に配合されるグリチルリチン酸二カリウムは、口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問53

禁煙補助剤の使用を避けるべき者の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a うつ病と診断されたことのある人
- b 母乳を与える女性
- c 3ヶ月以内の心筋梗塞発作がある人
- d 脳梗塞・脳出血等の急性期脳血管障害がある人

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問54

抗真菌作用を有する外皮用薬の配合成分とその特徴について、誤っているものはどれか。

[配合成分]	[特徴]
1 テルビナフィン塩酸塩 . . . . .	皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
2 シクロピロクスオラミン . . . . .	皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げ、その増殖を抑える。
3 ウンデシレン酸 . . . . .	患部をアルカリ性にすることで、皮膚糸状菌の増殖を抑える。
4 ピロールニトリン . . . . .	菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

問 5 5

滋養強壯保健薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 滋養強壯保健薬は、体調の不調を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素の不足による症状の改善又は予防等を目的として使用される。
- b 医薬部外品である保健薬の効能・効果の範囲は、関節痛、しみ・そばかす等の特定部位の症状も含まれる。
- c 医薬部外品である保健薬の配合成分や分量は、人体に対する作用が緩和なものに限られる。
- d ビタミン成分に関しては、1日最大量が既定値を超えるものであっても、医薬部外品として認められる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問56

滋養強壮保健薬の配合成分とその作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

[配合成分]	[作用]
a ビタミンE . . . . .	体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける。
b ビタミンB1 . . . . .	タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に関与する。
c ビタミンB2 . . . . .	脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つ。
d ビタミンB6 . . . . .	赤血球の形成を助ける。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問57

次の記述にあてはまる生薬として、最も適切なものはどれか。

キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。

- 1 ボウフウ
- 2 サイコ
- 3 ブシ
- 4 カッコン
- 5 ショウマ

問58

消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クレゾール石鹼液は一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して比較的広い殺菌消毒作用を示す。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する作用はない。
- c 手指又は皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬のうち、配合成分やその濃度等があらかじめ定められた範囲内である製品は、医薬部外品として流通させることが認められている。
- d 消毒薬が微生物を死滅させる仕組み及び効果は、殺菌消毒成分の種類、濃度、温度、時間、消毒対象物の汚染度、微生物の種類や状態によって異なる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問59

殺虫成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ピレスロイド系殺虫成分は、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害する。
- b 有機塩素系殺虫成分は、残留性や体内蓄積性の問題から、現在ではオルトジクロロベンゼンがウジ、ボウフラの防除の目的でのみ使用されている。
- c 有機リン系殺虫成分は、アセチルコリンエステラーゼと可逆的に結合して殺虫作用を示す。
- d ピリプロキシフェンは脱皮時の新しい外殻の形成を阻害して、幼虫の正常な脱皮をできなくする。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問60

一般用検査薬に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されるものを体外診断用医薬品という。
- 2 一般用検査薬には悪性腫瘍や心筋梗塞の診断に関係するものも含まれる。
- 3 尿糖・尿タンパク検査薬の結果により、直ちに疾患の有無や種類を判断することができる。
- 4 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定の補助として尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものである。